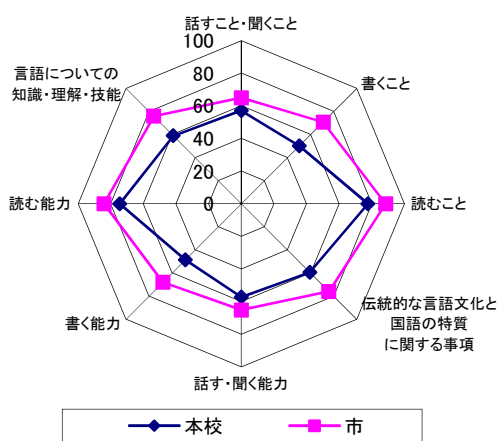


宇都宮市立上河内中央小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

|     |                      | 本年度  |      |      |
|-----|----------------------|------|------|------|
|     |                      | 本校   | 市    | 参考値  |
| 領域別 | 話すこと・聞くこと            | 57.1 | 65.0 | 62.9 |
|     | 書くこと                 | 50.2 | 70.9 | 71.3 |
|     | 読むこと                 | 77.6 | 88.4 | 87.2 |
|     | 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | 59.3 | 75.8 | 75.3 |
|     |                      |      |      |      |
| 観点別 | 話す・聞く能力              | 57.1 | 65.0 | 62.9 |
|     | 書く能力                 | 48.6 | 68.0 | 68.0 |
|     | 読む能力                 | 74.6 | 84.2 | 82.8 |
|     | 言語についての知識・理解・技能      | 59.0 | 75.9 | 75.6 |
|     |                      |      |      |      |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

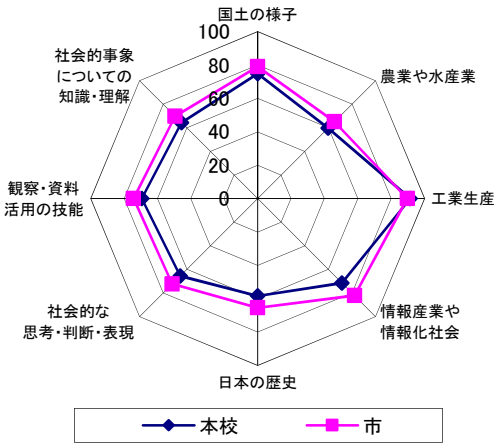
| 領域                   | 本年度の状況                                                                                                                                                             | 今後の指導の重点                                                                                                                                                                          |
|----------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 話すこと・聞くこと            | ・校内正答率は、市の平均より7.9ポイント低い。<br>●「話し手の意図を考えながら、話し合いの内容を聞くことができる」の校内正答率68.6%で、市の平均と比較して11.2ポイント低い。<br>●「司会者の役割を理解して、計画的に話し合おうとすることができる」の校内正答率28.6%で、市の平均と比較して4.6ポイント低い。 | ・児童の実態から必要性のある課題を取り上げ、話し合いに必然性をもたせるなどの工夫をするとともに、司会者や発表者などの立場や意図を明確にして、話し合いができるように指導する。その際、計画的に話し合いを進めていけるように、話し合う内容や時間配分などについて、指導していく。<br>・グループ学習などを活用して、自分の思い・考えなどの表し方や伝え方を学ばせる。 |
| 書くこと                 | ・校内正答率は、市の平均よりも20.7ポイント低い。<br>○「資料の内容を読み取って文章に書き表す内容を理解することができる」の校内正答率は、62.9%で市の平均と比較して4.6ポイントと高い。<br>●「指定された長さで文章を書くことができる」の校内正答率は、28.6%で市の平均と比較して45.7ポイント低い。     | ・日頃から、国語以外の教科でも自分の考えを文章で表現できるよう、意図的に機会を作っていく。また、長さや段落構成などの与えられた条件の中で文章を書く活動を繰り返し、書く力の向上を図っていく。<br>・読み手に自分の考えが伝わるように説明したり記述したりできるようにするために、説明的な文章における表現を振り返らせる。                     |
| 読むこと                 | ・校内正答率は、市の平均よりも10.8ポイント低い。<br>○「物語の内容を読み取る」では、文章の表現の工夫を読み取ることができた。<br>●「説明文の内容を読み取る」では、文章の内容を的確に読み取ることができなかった。                                                     | ・教科書の物語文や説明文を活用して、読み取りの力を付けていく。<br>・説明文については、語句や説明的な文章の表現を取り上げたり、接続詞やその役割、段落ごとの要点や段落構成を学ばせたりすることで、内容を的確に読み取る力や構成を押さえる力を高めていく。                                                     |
| 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | ・校内正答率は、市の平均よりも16.5ポイント低い。<br>●漢字の「書き」については「読み」よりも、校内正答率が低い。<br>●「文の構成(述語)」について理解している」の校内正答率は28.6%で市の平均と比較して24.6ポイント低い。                                            | ・漢字については、特に漢字の「書き」を繰り返し漢字ドリル等で継続指導し、定着を図る。<br>・日頃から文の構成を意識させながら表現する活動を取り入れ、定着を図る。                                                                                                 |
|                      |                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                   |
|                      |                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                   |

宇都宮市立上河内中央小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

|     |                 | 本年度  |      |      |
|-----|-----------------|------|------|------|
|     |                 | 本校   | 市    | 参考値  |
| 領域別 | 国土の様子           | 74.9 | 79.1 | 74.9 |
|     | 農業や水産業          | 59.6 | 65.1 | 63.7 |
|     | 工業生産            | 91.4 | 89.7 | 86.2 |
|     | 情報産業や情報化社会      | 71.4 | 82.2 | 73.1 |
|     | 日本の歴史           | 58.3 | 65.4 | 65.6 |
| 観点別 | 社会的な思考・判断・表現    | 65.5 | 72.2 | 69.0 |
|     | 観察・資料活用の技能      | 69.3 | 74.3 | 69.2 |
|     | 社会的事象についての知識・理解 | 64.4 | 69.9 | 69.3 |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

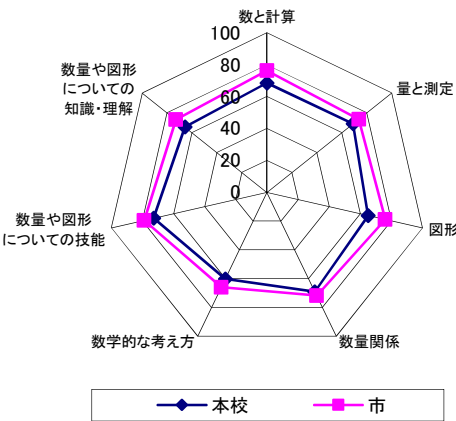
| 領域         | 本年度の状況                                                                                                                                                              | 今後の指導の重点                                                                                                                                                                  |
|------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 国土の様子      | ・校内正答率は、市の平均より4. 2ポイント低い。<br>○日本の周辺の海洋名を答える問題の正答率は、市の平均より2. 7ポイント高い。<br>●日本の北端・南端の島名を答える問題の正答率は、市の平均より13. 1ポイント低い。<br>●国民の防災意識の向上の大切さについての問題の正答率は、市の平均より7. 2ポイント低い。 | ・機会を捉えて積極的に地図帳や地球儀で位置や方位を確認させたり、白地図にまとめたりすることで、日本の領土の範囲についての知識の定着を図る。<br>・過去に起きた自然災害についての体験談や具体的な資料を示したり、地域の防災対策について具体的に調べたりすることで、防災は国や県などだけでなく、地域社会での取り組みが大切であることを実感させる。 |
| 農業や水産業     | ・校内正答率は、市の平均より5. 5ポイント低い。<br>○米作りの作業工程と作業を行う季節についての問題の正答率は、市の平均より15ポイント高い。<br>●日本の食糧生産について、複数の資料を読み取って考える問題の正答率が全体的に低く、市の平均より7～16ポイント低い。                            | ・複数の資料を用いて学習する際に、読み取るための視点を示すことで、資料を的確に読み取る力を育てる。<br>・資料を読み取ったり資料を基に考察したりする力を育てるために、資料から読み取れることを話し合ったり、資料を基に自分の考えを説明したりまとめたりする活動を積極的に取り入れる。                               |
| 工業生産       | ・校内正答率は、市の平均より1. 7ポイント高い。<br>○「工業製品の種類」、「優れた製品を生産するための工夫や努力」についての問題の正答率はいずれも90%以上で、市の平均より高いかほぼ同じであった。                                                               | ・全体的に高い正答率であった。今後も、児童が身近な生活と工業を結び付けて考えられるような学習活動の工夫を行うとともに、工業に携わる人々の工夫や努力について具体的に捉えられるようにするために、工場の見学などの体験活動を積極的に取り入れる。                                                    |
| 情報産業や情報化社会 | ・校内正答率は、市の平均より10. 8ポイント低い。<br>●「マスメディアについての理解」についての正答率は14ポイント、「医療での情報ネットワークの利便性」についての正答率は7ポイント、それぞれ市の平均より低い。                                                        | ・マスメディアの種類とそれぞれの特徴については、児童の生活経験によって理解に差ができると考えられる。身近なマスメディアの特徴や情報ネットワークの利便性について、日常的な機会を捉えて具体的な場面で説明するとともに、情報化社会における正しい情報利用の方法についても繰り返し指導していく。                             |
| 日本の歴史      | ・校内正答率は、市の平均より7. 1ポイント低い。<br>○室町文化として書院造を答える問題の正答率は、市の平均より12. 1ポイント高い。<br>●縄文時代～平安時代についての問題の正答率は7～11ポイント、安土桃山時代～大正時代についての問題の正答率は18～22ポイント、それぞれ市の平均より低い。             | ・それぞれの時代の特徴や時代のつながりを押さえられるよう、時代を代表する歴史事象や人物の業績について調べたことを、年表や図表にまとめる活動を積極的に取り入れる。<br>・歴史的な事象と人物の業績、文化遺産を関連させて学習することで、先人の工夫や努力と現在の生活とのつながりを意識させ、歴史を学ぶことに対する意欲を高める。          |
|            |                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                           |

宇都宮市立上河内中央小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

|     |                 | 本年度  |      |      |
|-----|-----------------|------|------|------|
|     |                 | 本校   | 市    | 参考値  |
| 領域別 | 数と計算            | 68.6 | 76.2 | 72.9 |
|     | 量と測定            | 69.0 | 73.6 | 70.6 |
|     | 図形              | 65.0 | 76.0 | 72.1 |
|     | 数量関係            | 69.0 | 71.8 | 66.9 |
|     |                 |      |      |      |
| 観点別 | 数学的な考え方         | 60.3 | 65.9 | 58.0 |
|     | 数量や図形についての技能    | 72.9 | 78.9 | 76.2 |
|     | 数量や図形についての知識・理解 | 65.7 | 73.1 | 70.4 |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

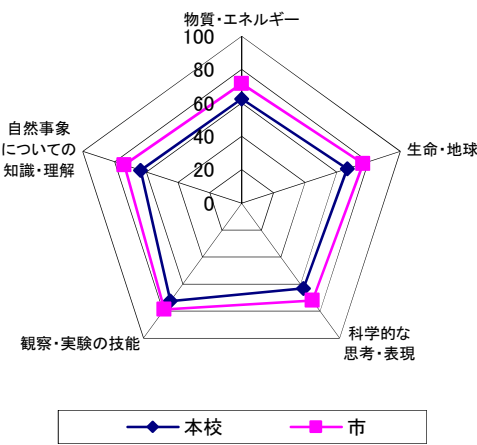
| 領域   | 本年度の状況                                                                                                                                                                                                                                                                           | 今後の指導の重点                                                                                                                                     |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 数と計算 | 平均正答率は、市の平均と比べて低い。<br>○数と計算については、小数の計算の正答率が市の平均より8.3%高い。これは、単元の学習以外にも定期的に宿題で問題を解いたことにより定着したと考えられる。<br>●図を使って小数の除法の文章問題に合った式を選ぶ問題では、乗法の式を選んでいた誤答が多く、図を用いて数量関係を考えることに課題が見られる。                                                                                                      | ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの<br>・基本的な計算の定着に向け、宿題や朝の学習を活用して定期的に問題を解くなど、継続的に指導する。<br>・図を用いて考えたり説明したりする力を育むために、数量関係を図で表す活動や図を読み取って立式する活動を積極的に取り入れる。 |
| 量と測定 | 平均正答率は、市の平均と比べて低い。<br>○直径が与えられた円の面積を求める式を考える問題では、平均正答率が94.3%と市の平均を4.5ポイント上回っている。これは面積を求める応用問題を繰り返し解いた成果だと考えられる。<br>●面積と人数から1㎡あたりの人数を求める問題において、平均正答率が14.3%と市の平均より16.2ポイント低い。人数の多い選択肢を選ぶ誤答が多かった。このことから、面積と人数から単位量あたりの大きさの考え方を用いて比較することに課題が見られることがわかる。                              | ・単位量あたりの大きさにおける混み具合を求める問題では、「1面積あたりの人数」と「1人あたりの面積」の区別をつけて立式できるようにするばかりでなく、数が多い方が混んでいると短絡的に答えることのないよう、立てた式から出される数の意味まで押さえて指導する。               |
| 図形   | 平均正答率は、市の平均と比べて低い。<br>●平行四辺形について、線対称か点対称かを正しく説明した文を選ぶ問題において、平均正答率が48.6%と市の平均より20.9ポイント低い。対称の軸が斜めになった際の対応する点を選ぶことに課題が見られることが分かる。                                                                                                                                                  | ・線対称と点対称、それぞれの性質を正しく理解するために、習熟度学習や少人数指導を有効に活用し、児童に作図をさせるなど、算数的活動の充実を図る。                                                                      |
| 数量関係 | 平均正答率は、市の平均と比べて低い。<br>○文字式について、片方の文字の値からもう一方の文字の値を求める問題では、平均正答率が市を3.3ポイント上回っている。数字を代入して文字が1つの式として解くことができている。これは、反復練習により、式の移行が正しく身に付いたからだと考えられる。<br>●割合と比について、調べた分量と作りたい分量の割合を読み取り、足りない材料の量を求める問題において、平均正答率が市の平均より4.1ポイント低い。材料の量の差を答えた誤答が多かった。このことから、分量の割合ではなく、差で考えてしまっていることが分かる。 | ・割合の問題では、比べられる量、もとにする量、割合を求める公式の定着を図るためにそれぞれの相互関係を表した図を示し、視覚的にも立式できるように指導し、定着を図る。                                                            |
|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                              |

宇都宮市立上河内中央小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

|     |                | 本年度  |      |      |
|-----|----------------|------|------|------|
|     |                | 本校   | 市    | 参考値  |
| 領域別 | 物質・エネルギー       | 62.5 | 71.6 | 67.4 |
|     | 生命・地球          | 66.5 | 76.6 | 75.5 |
|     |                |      |      |      |
|     |                |      |      |      |
| 観点別 | 科学的な思考・表現      | 63.1 | 72.1 | 68.8 |
|     | 観察・実験の技能       | 72.6 | 78.7 | 76.3 |
|     | 自然事象についての知識・理解 | 63.6 | 73.9 | 71.5 |
|     |                |      |      |      |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 領域       | 本年度の状況                                                                                                                                                                                 | 今後の指導の重点                                                                                                                                                                                        |
|----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 物質・エネルギー | ・校内正答率は、66.5%で市の平均より10.1ポイント低い。<br>○「物のとけ方」のメスシリンダーの使い方やろ過の仕方の問題では市の平均より3ポイント高い。<br>またミョウバンが水に溶ける量についてをグラフから読み取る問題では市の平均より1.6ポイント高い。<br>●「水よう液の性質」については市の平均正答率よりも約10～20ポイント低く、課題が見られる。 | ・実験結果をもとに、条件を変えた場合の結果を推測させたり、規則性をもった変化について科学的に思考する場面を設けたりするなどして、理解を深めさせ、定着を図る。<br>・実験や観察など、体験を通した学習を今後も取り入れていきたい。また、実験の結果から、予想を検証して説明する活動も今後より一層取り入れていく。<br>・石灰石の性質やリトマス紙の色の変化など基礎基本的な知識の定着を図る。 |
| 生命・地球    | ・校内正答率は、66.5%で市の平均より10.1ポイント低い。<br>●「動物のからだのつくりとはたらき」の唾液のはたらきや消化器官の名称に関する問題では、校内正答率は市の平均より約10～30ポイント低く、課題が見られる。<br>●「月と太陽」の月の形から、太陽がある方位と観察した時刻を指摘する問題では、市の平均正答率よりも32.3ポイント低い。         | ・「動物のからだのつくりとはたらき」において、名称に関する知識・理解を高めるためワークシートなどを活用する。また、映像や図などを用いて事柄の説明をするなどして学習の定着を図る。<br>・ある事柄やきまりをもとにして、説明したり書き入れたりする活動や、考察した考えを伝える活動をグループやペアになって取り入れるなどして学習の定着を図る。                         |
|          |                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                 |
|          |                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                 |
|          |                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                 |
|          |                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                 |



## 宇都宮市立上河内中央小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

| 重点的な取組                     | 取組の具体的な内容                                                                                                                                     | 取組に関わる調査結果                                                                                                                                      |
|----------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 「主体的・対話的で深い学びの創造」に向けての校内研修 | 自分の考えをまとめる時間を確保し、学び合いを通して、思考の筋道をたどりながら、考えを深めることができるように指導の工夫を図っている。<br>授業の中で、「上央小 授業スタンダード(学習のきまり)」を実行し、はっきり・じっくり・すっきりした授業を展開し、児童の学習の定着を図っている。 | ・「話合いに自分から進んで参加している」の肯定割合は昨年度より向上している学年が増えている。しかし、「根拠をあげて話をする」ことがやや低い。<br>・「授業で習ったことをノートにまとめている」の肯定割合が各学年とも向上している。                              |
| 基礎・基本の確実な習得                | 基礎・基本的な内容を意図的に繰り返し学習したり、家庭学習の習慣化を図ったりしている。<br>また、朝の学習時間を活用し、担任以外の先生たちによる学習の個別指導を行ったり、とちぎっ子の結果から、「今年度中に復習するところ」を洗い出し、復習をしたりしている。               | ・6年生では、全教科の正答率が市の平均より低かった。各教科、各観点で課題がみられる。<br>・「習ったことを何度も繰り返し練習している」の肯定割合は低い学年と高い学年がある。「宿題をやっている」は肯定割合が9割を超え、与えられた課題には取り組むことができている。             |
| 家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫          | 「家庭学習のすすめ」を作成し、全家庭に配付するとともに、児童には家庭学習の取り組み方の指導をする。また、「家庭学習チャレンジ週間」の実施や学期ごとの「家庭学習名人表彰」等を行い、宿題に取り組む意識の向上を図っている。                                  | ・「学習時間」については、学校で定めた学習時間と同程度以上の時間取り組んでいる児童の割合が低学年9割、中学年6割強、高学年5割強と学年が上がると取り組めない傾向が見られ、高学年は「1時間超」と「ほとんどしないか10分」の両極で増えている。また、全体では「ほとんどしない」が減少している。 |

### ★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・「授業の前に着席している」などの肯定割合が高く、学習ルールはよく身に付いている。また、「授業が分かる」の肯定割合も高いが、「繰り返し練習している」の肯定割合は低く、意識して復習に取り組むことが不十分であることが分かる。今後も朝の学習や宿題等で繰り返し復習できる機会を設けていきたい。
- ・「話合いに自分から進んで参加している」の肯定割合が昨年度よりも向上している学年が多いが、「根拠をあげて話している」は低い傾向にある。次年度も継続して、自分の意見を表現するだけでなく、理由や根拠について説明できるように全校で取り組んでいきたい。
- ・4～6年生は調査では、短答や記述式の問題の無解答が、市に比べて多い。表現力の育成に取り組んだ結果「習ったことをノートにまとめている」の肯定割合は向上する傾向が見られるので、引き続き「書く」「言語」の指導に取り組んでいきたい。
- ・家庭学習については、「宿題」に9割の児童が取り組んでいるが、「計画を立てて学習する」は6割程度と少ない。今後、今年度同様に「家庭学習のすすめ」や「家庭学習チャレンジ週間」などを利用し、計画を立て、進んで学習できるような指導を継続していきたい。